

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453		
法人名	社会福祉法人 夕凧会		
事業所名	グループホーム 夕凧の家		
所在地	岡山市 東区 宿毛 745-3		
自己評価作成日	平成27年 3月 20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人夕凧会の広い敷地の中に、特別養護老人ホーム、デイケアセンター、ヘルパーステーション、ケアハウス、道を隔てて宿毛診療所もあり、総合的なケアが受けられます。夕凧の家はケアハウス棟の4階部分にある事で、とても眺めが良く、小高い丘には桃畑や桜並木、眼下には田園風景が広がります。居室の南は屋上庭園になっており、畑やプランターで季節の野菜や花を育てています。開放的で明るいホーム内で、一人ひとりの思いに寄り添いながら、のんびりまったり、一緒に楽しくをモットーに支援させて頂きます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成 27 年 4 月 6 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季を通して眺めのいい田園風景に囲まれた所で地域の保健・福祉を担う支援事業が終結した一角にあるグループホームです。永年地域で培ってきた人間関係や暮らしが継続できる様、地域に密着した日常生活に取り組んでいます。両下肢の低下がめだつようになり手すりを持って職員の掛け声で筋力トレーニング、又、失禁防止運動など自立に向けた支援に努めており、入居者、職員が生活のパートナーとして家庭的な雰囲気の中で過ごしている様子が窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ISOや外部評価、事業計画の時期が近付くと、職員会議などで話し合い確認し、実践につなげている。	全職員が理念を確認し使命感と責任を持って具体的なケアについて意見の統一を図り支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕凧会全体行事やケアハウスの行事、外出時に地域とのふれあいがある。	夕凧会全体で地域との相互交流が積極的に行われています。夏祭り、敬老会、山南地区の健康まつり、保育園児の訪問、専門学校の実習生の受け入れ、地域ボランティア等日常的に交流しています。	今後とも地域との相互交流にグループホーム独自の新しい企画も取り入れながら継続されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の施設と連携し、高齢化が進んでいる犬島に訪問したり、夕凧の居宅や岡山東地域包括支援センターとも、連携を取っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や包括支援センター、家族の方から出た意見を職員会議などで取り上げ、ケアに活かすように取り組んでいる。	運営推進会議を開催し参加者へ現在取り組んでいる状況などを報告し、参加者の意見、情報等をサービス向上に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営委員会などで夕凧の家の現状や困難事例などの報告、相談をし助言をいただいている。	担当者とは日頃から連絡を取り、分からないことや疑問に思った事などよく相談に乗ってもらい情報を貰うなど協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い入居者の安全の為、玄関の施錠のみ行っている。	安全面から玄関の施錠をしているが、全職員が勉強会で学びながら身体的拘束をしないケアについて(施錠等含め)正しい理解に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビや新聞などでの情報を、職員間で話し合い、虐待防止の研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と権利擁護の研修に参加し、職員会議などで伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明し、後で苦情につながらないように、理解や納得をして頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお手紙などで随時現状を伝え、意見要望等をお聞きしている。あれば真摯に対応している。	日常生活を観察し家族へ伝え、希望や要望が話やすい雰囲気づくりに努めています。その都度家族と話し合っって運営に反映させるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見が言える雰囲気作りをしている。良い意見や改善は、職員会議で決定し実践につなげている。	気軽に話し合える雰囲気づくりに努め、スタッフから出た提案事項や要望を迅速に対応し、可能な限り業務に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が向上心を持って働ける様、給与面や研修など多方面で配慮してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課などで把握され、職員を育てるシステムが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の同業者と話し合ったり、転所先の同業者との相談や打ち合わせなどの機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いままでの生活と大きく変わらない様、生活歴や性格、趣味など情報収集し、入所後は傾聴、共感に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や、願い思いなどお聞きし、取り除けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって、今一番必要な支援が何なのかを見極め、真摯に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の、残存機能や積極的な言動を大切に活かせるような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、家族の願いや思いをくみ取りながら、連絡を密にシケアに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の来訪や、電話に出られる事で、馴染みの関係を大切にしている。	馴染みは絶えることなく姉妹・親戚・隣の人・茶道の友人の訪問・実家へ行くなど、遠方の方には電話を掛けたり途切れない支援がされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の配膳や片づけ、菜園活動、レクリエーションなどを通じて、一人ひとりが孤立することなく協力し、助け合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、転所先の施設のケア会議に参加したり、地域包括支援センターに退所後の支援をお願いするなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや願いを、傾聴したり、生活歴からたどったり、家族との話の中から得るなどして、カンファレンスで検討し支援に努めている。	今までの生活習慣を大切に日頃から「見る目・聞く耳・気づき」を心掛け、入居者が何を求めているのか把握するようにしています(食事の希望等はよくあるようです)。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や生活環境を把握し、以前の生活と大きく変わる事のない様支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや動作、表情の変化、食事やレクリエーションの楽しみ方などから、小さな気づきを見逃さず、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医の意見を取り入れ話し合い、現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	本人の希望を大切にしながら、家族・主治医など必要な関係者の意見を取り入れ話し合い、モニタリング、カンファレンス等を実施し現状にあった介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わずかな気づきの情報も職員間で共有し、ケアの実践や見直しを、介護計画に活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のあらゆるニーズに対して、柔軟かつ丁寧に対応出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や外出など地域資源を活用し、気分転換を図り楽しみが持てる様な支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、主治医、事業所の良い関係づくりが出来ていると思う。これからも連絡を密に取り、適切な医療を受けられる様努力する。	歯科、内科の往診があり専門医への受診は職員が同行し適切な医療が受けられるよう支援に取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	感染症予防の指導や急な受診時の相談など、ケアハウス棟の看護師との協力体制が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、協力病院、事業所間の連携により早期に退院が出来る様、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時、家族に現状を伝えながら、重度化し看取りに近い所まで支援させて頂く為の、話し合いを重ねている。	グループホームでの看取りについて本人、家族と段階的にしっかりと話し合いながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、救命救急研修を受けたり、主治医の助言や指導を常に心にとめて、危機管理意識を持つよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。夕凧の施設が地域の避難場所になる為、運営推進委員会で地域の水害や災害について議題にあげている。	年2回消防署の協力で夕凧会全体で避難訓練を実施しています。消防署よりグループホーム夕凧の家の避難経路、その他の点検があり助言もあります。ハザードマップを掲示しています。	今後とも地域との協力体制を築き災害対策、自然災害など様々な緊急対策に備え、全職員が取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の「人間の尊厳を守る」という理念を職員間で共有、遵守し、一人ひとりのプライバシーを損ねない支援に努めている。	「人間の尊厳を守る」という理念を遵守し、それぞれの立場や場面で状況に合わせた声かけで失礼にならないよう十分注意し対応する様心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い傾聴することで本人の思いや願いを引出し、意思疎通が困難な時は表情や言動を生活歴から汲み取るなどして支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の性格や趣味など考慮し、入所以前と大きく変わる事のないように、一人ひとりのペースを大切に支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めや髪型、化粧品、服選びなどその人らしさがでるような支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入れ歯の調整で歯科受診や、誤嚥体操を行ったり、食事の準備や後片付けと一緒に行動など楽しみなものになる様支援している。。駅弁や郷土料理など工夫されたメニューも喜ばれている。。	四季折々の食材で家庭的な料理を栄養士の指導のもとで提供し食を楽しまれています。食事の準備、配膳、後片付けなど手伝っている入居者の様子がみられました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや嚥下状態、咀嚼能力などを考慮し、主治医、看護師、栄養士の助言を取り入れ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とはいかないが、一人ひとりの口腔状態に合わせて随時支援に努めている。拒否がある時は無理強いせず臨機応変に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	4名の自立の方を除いては、本人の排泄パターンを把握し、2～3時間間隔で声掛けや誘導にて自立に向けた支援が出来るよう努めている。	本人のサインを見逃さないように気配り・目配りしながらプライバシーに配慮したトイレ誘導を心掛け自立に向けて取り組んでいます（自立した入居者が多い）。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナやヨーグルト、サツマイモなど食事に取り入れたり、運動を行ったり、下剤を服用するなどし、早い段階での排便を促す様な支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の方が多いが、声掛けを工夫したり、曜日や時間帯を変えるなどして楽しみとなる様、柔軟な支援に努めている。	今までの生活習慣を大切にしながら一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴を楽しめるよう支援しています。浴そう廻りの暖房設備も整っていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に居室での休息や自由時間があり、就寝も一人ひとりのペースに合わせて安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の質問には誠意をもって説明し、服用後に変化が見られれば、すぐに主治医に報告し、指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で、一人ひとりが生活歴や残存能力を活かして、生きがいや喜びが見いだせる様な支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域資源を活用し、季節ごとに外出を行っている。盆と正月に自宅に外泊する入居者の方もいる。天気の良い日はテラスでお茶をし、気分転換を図っている。	日常の外出の他にも季節に応じた外出（安仁神社へ初詣、神崎へ梅まつり）、盆、正月には自宅へ帰る入居者もいます。お洒落して家族と出掛けたり、一人ひとりの外出支援に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている入居者の方が2名いる。要望があれば、飴やお供え物など購入したり、外出時に飲み物などに使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人、親類に電話をかけたり、受けたり出来ている。暑中見舞いや年賀状も希望者は職員と作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的で明るく安全、季節感あふれる空間作りをし、居心地良く過ごせる様工夫している。	共同空間に観葉植物、季節の生け花、又入居者の作った作品も飾られ、窓からは季節の桜が眺められ、ベランダでの野菜・花作りが楽しめる心地よく過ごせる落ちついた雰囲気づくりが見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり、好みの場所があったり、季節感を取り入れ居心地良く穏やかに過ごして頂ける様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意見を取り入れ、安全性を考慮し、本人が居心地良く過ごせる様努力している。	思い出深い品々でその人らしい居室作りがなされており、仏壇に毎朝お茶をお供えする人もおられ、居心地よく過ごせる様支援されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり、大きなトイレの目印、浴槽内の滑り止めマットなど、安全で自立した生活が送れる様工夫している。		